

人権だより

宇和島南中等教育学校

No. 279 (2021.4)

数年前のサイレントマジョリティたちへ

人権教育部課長 大本 浩之

来年度から導入される「歴史総合」のある教科書に、樺坂46の「サイレントマジョリティ」の歌詞が掲載されるというニュースが話題になりました。引用されている部分を紹介いたします。

似たような服を着て 似たような表情で
群れの中に紛れるように歩いている(疑わずに)

誰かと違うことに 何をためらうのだろう・・・

誰かの後 ついていけば 傷つかないけど

その群れが 総意だと ひとまとめにされる・・・

この世界は群れていても始まらない

YESでいいのか？ サイレントマジョリティ

解説では、この歌詞の中には「声を上げないことは、賛成と同じ」であること、意思表示せず「大衆」でいることへの疑問を投げかけるメッセージを伝えてしていると紹介されています。「マジョリティ」というと、一般的には社会的に強者の立場にいる人たちを指しますが、この場合は「ふつう」とみなされている人を意味しています。大部分のマジョリティは、差別に対して無関心で、差別問題は他人事で、自分自身の問題であるという認識がありません。差別する人は「悪い人」だが、差別をしていない自分は「いい人」だと思っています。

「沈黙は暗黙の同意、笑うのは共犯」という言葉があるように、自分の周りで差別やいじめがあるのに何も言わないというのは、差別やいじめを認めたこととなります。まして、人がいじめられているのを見て笑うのはいじめに加担したことになるのは言うまでもありません。

一方で、「沈黙は不同意」という場合も少なくありません。声を上げたくても上げられない状況に追い込まれるサイレントマイノリティ(ものが言えない少数派)の人たちが少なからずいるからです。相手が否定しなかったからといって、「同意した」とみなして何をしてもしゃべられるわけではありません。

南校人権教育部 自己紹介

○ 大本 浩之 5年2組副担任 教科:地歴・公民 ※冒頭執筆

○ 三好 あや 6年1組副担任 教科:英語
本校に赴任した昨年の4月以来、毎月1回行われる「宇和島市高校生友の会」に参加しています。これは市内の高校生たちが、様々な人権問題について考えたり、意見を交えたりする場です。どの生徒もしっかりとした意見を自分の言葉で熱く語っていて、その姿はとても頼もしく、参加するたびに私も元気をもらい、爽やかな気持ちになります。南校生の皆さんも参加してみませんか。

○ 岩崎 朋子 3年4組担任 教科:英語
常日頃、自分の“当たり前”を変えていく必要を感じます。自分の“当たり前”は“当たり前”ではないことを知った時、ものの見方やとらえ方が変わり、世界が広がっていく気がしています。そのためにも、様々なつながりを求めて、まずは自分が動くんだという「始動者」でありたいと思います。ぜひ違いに触れて、違いを楽しむ出会い、体験を味わえる1年にしましょう。

○ 吉積 惟代 1年2組担任 教科:美術
私は美術館などで作品を鑑賞するのが好きです。作品には、作者の考えやその人らしさが詰まっていて、それが生々しく伝わってきたとき、心を動かされるからです。良い作品を見るたび、自分らしく生きることや、他者の思いを分かろうと努力することを、大切にしていきたいなど思います。みなさんと一緒に、私も人権について学んでいきます。1年間よろしくお願ひします。

人権委員会の活動を紹介します。

・「人権を確かめあう日」の放送

「人権を確かめあう日」では、月に1回発行するこの「人権だより」を読んで、みんな人権について考えます。朝の会・SHRの時間に実施しています。毎回、さまざまな先生方がさまざまなテーマで原稿を寄せてくださいます。一人一人、人権について改めて考えてもらいたいと思います。

・人権集会

2学期に人権集会を行います。人権委員の生徒が参加した校外の活動について報告したり、世の中にある人権問題についてまとめた内容を発表したりします。まずは「知る」ことから始めてみてください。

・文化祭での展示

文化祭では、みなさんに人権標語を考えてもらい、その中からいくつかの作品を展示するなどします。ぜひ足を運んでください。

この他にも、さまざまな活動を予定しています。